

サッカー少年がインターハイで戦うまで 駅伝強豪校対春日部高校

和歌山インターハイから数日後、実は私は歯科大学陸上部の全国対抗戦に参加し仕事をしていた。こちらのOB会でも大事な仕事を担っているの、いまやっこのコラム記載を進行している次第である。

そんな中、診療室に喜びの電話が相次いで入った。

「いやあ！おめでとう！すごいねえ！」

春陸の後藤均先輩と、杉崎孝先輩だ。とくに杉崎先輩は春陸100年でただ一人の長距離種目の入賞者。それからなんと60年を経て、ようやく今年、後輩がその聖域にたどりついた。歴史的快挙にお二人は大喜びであった。

★サッカー少年が

その少年は中学時代、サッカー部であった。中学に陸上部がなかったためだ。サッカー部の顧問には「高校で陸上やったらどうだ？向いているんじゃない？」といわれた。

春高入学後、なんとなくグラウンドに来たらサッカー部は練習していなかった。二回目に来たときもグラウンドには陸上部しか練習しておらず、「まあ、いいか・・・」という軽い決断で入部したらしい。(青木母・談)

それが青木涼真列伝の始まり。

新入生挨拶の青木。二年後見事に
有言実行してみせた。



2年前の7月の新入生歓迎会で青木は語った。「春高記録でインターハイ勝ちます」。これは奥岡、後藤も同じ歓迎会で言っていた「有言実行」になぞっての発言。実に飄々とした、陸上向きの性格。

中学時代、サッカー部ではあったが長距離はまあまあ速かったので気楽に始めたらぐいぐい伸びてきた。

幾多の長距離関東～インターハイ選手を育成している秋庭先生の手腕が活きる。陸上を始めて1年間で1500mサブ4分、5000mサブ15分まで到達してしまった。

★3年生で初めての関東

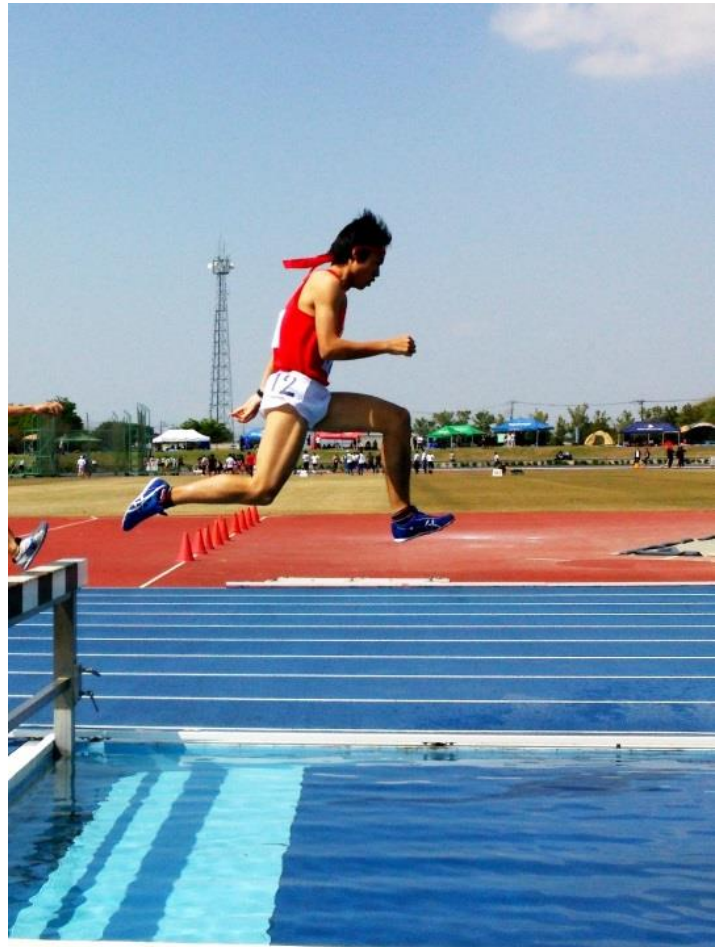
青木は関東新人を除いて、2年生の県大会予選時は5000m14分台突入するも、関東進出の6位以内はつかめなかった。20年前の福田時代とは様相が変わっていた。トレー

ニング方法も基準記録も全く違う。

この時点で、青木の来季インターハイへのビジョンが練り上がっていった。

青木の特徴は、サッカー経験のためか、一般的な長距離ランナーより大腿筋が発達していてバネがある。暑さにめっぽう強い。完走してもへたり込まないスタミナがあり、ラストスパートのスピードもある。・・・こういった特徴をふまえて、青木のインターハイ構想はある結論に達した。

- 1、バネがある走り
- 2、バテないスタミナ
- 3、暑さに強い
- 4、スパートの脚の速さ
- 5、メンタルの強さ



ずばり・・・「3000mSCで全国入賞」である。

全国入賞は5000mでは14分10秒が必要。1500mは3分50秒切り……。しかしスタミナと跳躍バネを活かした3000mSCなら可能性はある。9分ひとけた
・・・それから3000SCへのための1500m、5000m記録更新プランが始まった。

2年生の間は3000mSCの新人戦は出ない。しかし翌年の県大会のためのシード権は確保する。

★東部幻の3冠

東部大会は1500m、5000m（大会新記録）で二冠獲得。とくに東部とはいえ5000mの大会新記録は歴史に残る快挙であった。風の舞うシラコバト。全体的に記録は出にくい競技場である。独走となったレースでの記録は、素晴らしい仕上がりの証明であった。3000mSCも独走であったが、体制が揺らぎラインを踏んでしまったため失格となった。しかし出場資格はあるため、今後のよい教訓となったと思う。

★関東入賞でインターハイ切符を

県大会では5000mを棄権し、1500mは0.01秒差で準優勝。3000mSCは10秒差の圧勝であった。5000mでは14分33秒68を4月にマークしていたので他校の監督達は面食らったであろう。それも1年がかりの作戦。

一番の難所は関東の決勝。ここで7位に泣いた選手をいくどもみてきたか……。

秋庭先生の関東大会作戦は1500mは春高記録で予選落ち。後半の3000mSCにかける……というものであった。

予想通り1500mは3分55秒42の春高新記録。予選で終えるつもりが決勝に残ってしまったため2本目も走った。秋庭先生いわく、「この1本は予想外だった……」と。つまり20年前の1500m春高記録では、今となっては予選通過が苦しいという時代に進化してしまったのである。

一日置いた3日目に3000mSC予選。とにかく決勝6位以内に確実に入る事……これが山梨関東の最大の目標である。色気を出して優勝なぞ狙ってはいけない……**関東は通過すればいいのだ。**

決勝結果は4位の安定位置。これでいい。駅伝強豪高校の栃木勢が盛況。短距離で圧倒的に強い南関東の記録を、長距離種目は北関東がしのいでみせた。ここで3000mSCは埼玉勢は青木のためのインターハイ出場となってしまった。

安藤先生の指揮する競歩は**藤田が大健闘**。22分9秒63で6位入賞という堂々の春高新記録をマーク。8年前、関東を制した高島の記録を破った。中長種目や競歩は毎年のようにレベルアップして



いる。

その2へ

「関東は通過すれば、それでいい。決して色気を出してはならない。転倒や無駄なマークにあわないように・・・！」秋庭先生のプランだ。本気で走るのはインターハイに行ってから！

